



教職の魅力共創

教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

愛知教育大学 NEWS Vol.1

2021年1月15日発行



Q このプロジェクトについて教えてください。

近年、全国的な傾向として、教員採用試験や教員養成大学及び学部志願倍率が下がってきています。教員のマイナスイメージの報道による影響が大きいと思います。私の身近でも、本人は教員を志望していても保護者の反対を受けて断念したケースもありました。

これまで「教職の魅力」というと教育関係者の範囲で議論されてきました。しかし、時代の変化や「社会に開かれた教育」の重要性が強調され、コミュニティスクールに代表されるように、地域社会で学校を支え運営していく方向性が出され、多様な社会の

声を教育に反映させるための仕組みの構築が強く求められています。加えて、現在のコロナ禍において、教育や学校、教職の在り方は、様々な立場からの精査や根本的な見直しが迫られています。このような状況の中、地域フォーラムやオンラインアンケートを通じて、現在の社会における教職に対するイメージを探り、「教職の魅力向上」に向けた課題を定量的・定性的に明らかにするプロジェクトを立ち上げました。また、フォーラムの成果やアンケート結果を専用ウェブサイトやリーフレット、動画等を活用して広く発信していきたいと考えています。

Q 学長が考える「教職の魅力」とは何ですか？

私は、スポーツマンでいつも笑顔を絶やさない小学校高学年の担任の先生に憧れ教師になりたいと思いました。中学校2年生の担任の先生は、国語教師で驚くほど本を読んでおられ、その専門性の高さに感心し、自分も何かに秀でた教師になりたいと思いました。高校1年生の担任の先生は、型破りで私の教師観を覆されましたが、面倒見のよさ、生徒との距離の近さに親しみを感じました。また、その先生は生物学が専門であり、大いに感化され、私も大学では生物学を専攻することにしました。このように、教師の仕事あるいはその個性は、大いに子どもの成長に影響を与えたいと思います。

大学院修了後、私は、14年間小学校教師をしました。教師は、時間もおかき忍耐のいる仕事です。子どもは一人一人個性が違うので、マニュアル的な方法はありません。誠意をもって接し、目の輝きや伸びていく姿を見ると、教師をしていてよかったと感じます。また、卒業後もずっと教師として関わり、彼らが人生を切り拓いている姿を見ると感激します。

例えば、とてもやんちゃだったのに、立派に家業を継いで経営している子、卒業文集に「看護婦さんになりたい」と書き、夢を叶え看護師になり、子育てをしながら頑張っている子、職を転々と

したあとで、あるきっかけで大成功している子などです。中でも、「野田先生のような先生になりたい」と言って、本当に小学校教師になった子から連絡が



あったときには、大変嬉しく思いました。小学校教師のときも大学教員になってからも、何度も驚き喜びました。涙しました。このように、教師という仕事は、感動の多い職業だと思います。

愛知教育大学 学長

野田 敦敬

1958年生まれ。名古屋市出身。

教育学修士(愛知教育大学)

専門：生活科教育、総合的学習

日本生活科・総合的学習教育学会第9期会長

2020年4月より第13代学長に就任



インタビュー動画

Interview

教職の魅力インタビュー



新たなものを仲間と共に
熱く創っていくことができる、
それが教師の仕事

伊倉 剛 先生

愛知教育大学附属岡崎中学校



》先生にとって「教職のやりがい」とは？

子どもの本気の顔を見られたときが一番うれしいです。それは部活動であっても、行事であっても一生懸命声を出してプレーしたり、真剣な表情で心を込めて歌っていたり、あるいは授業で「自分の考えを分かしてほしい」という熱のある発言を聞いたりするとき、一番やりがいを感ずいます。そのために、毎日仕事をしているんだなあと感ずっています。

》仕事をする上で心掛けていることは？

「当たり前を疑うこと、決めつけないこと」です。自分の考え方や見方というのは一面的だと思います。子どもを「この子はこういう子なんだ」と決めつけることはやめようと思っています。私の一面的な見方で子どもの可能性を狭めてしまうだろうなと思っていますので、常に「疑うこと」が大事だと感ずます。そのためには、子どもの言葉や姿、「事実」を基にどうするかを感ずるように心掛けています。

》夢や目標は？

「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」ということが言われていますが、教室に閉じこもってはいけなと思っています。学校教育に携わる者として自分自身の見方を広げたいと思っています。そのために、広く学校関係者ではない方と接したり、友達を世界に広げてたくさんつながりを作っていきたいです。もっと自分が動いて、自分の見方を広げ、そういうまなざしで子どもたちと接していければいいなと思っています。

》先生にとって「教師」とはどういう仕事ですか？

熱い職業です。子どもはもちろん、同僚や地域の方、企業など外部の方々と一緒になつて新たなものを創っていける職業です。これからの時代は、「教える」という教師像は通用しなと感ずています。新たなものを仲間と共に熱く創っていくことができる職業だと思っています。

》教師を目指す人へのメッセージ

教師になる前の自分に言いたいことは、「時間を大事にしてよ。近くにいる人を大切にしていよ。外の世界を見てよ」です。その反動で、今、懸命に知見を広げようとしています。こういう経験があつて、魅力的な教師、人になれるのだと思います。



インタビュー動画

伊倉 剛 先生

愛知教育大学附属岡崎中学校 研究主任
教職24年目(小学校11年、中学校10年、行政3年)
担当教科：社会

Interview
教職の魅力インタビュー



教材との出会いが自分の人生を豊かにしてくれる

吉牟田 幸子 先生
刈谷市立刈谷南中学校



》先生にとって「教職のやりがい」とは？

若いころは運動会のマスゲームが完成したときに、朝礼台の上で感動して泣いたりしました。また、部活動で負けても練習してきたことを精一杯やりきった感が出たときに震える思いをしたことがあります。今は、授業で子どもたちが「すごい!」と思える発言をしたときや、子どもたちみんなで授業を創り上げたとき実感したときに感動があります。そういう授業は、子どものノートをしっかり読んで一人一人の考えを教師が把握するときに可能になります。こうした授業にやりがいを感じます。

》仕事をする上で心掛けていることは？

多くの子どもと話すようにしています。放送で名前が出た子、ボランティアに参加している子、実行委員などに立候補して頑張っている子に「さすがだね」「ありがとうね」という声掛けをするようにしています。それから、アンテナを高くするようにしています。例えば、係りの子どもが何かを配ったときに、それをもたらした子どもが感謝の気持ちでちょっと頭を下げたりするような姿があったとき、全体の場で評価したり、こっそり「ありがとうね」と声を掛けることなどを心掛けています。

》先生にとって「教師」とはどのような仕事ですか？

私自身の人生を豊かにしてくれているものです。5年生で宮沢賢治の作品を学習したとき、「宮沢賢治さんに手紙を書こう」と投げかけたところ、子どもたちから「誰が読むの?」と返ってきました。「じゃあ、先生がお墓に持っていくね」と言って、実際にお墓に行きました。それ以来、岩手や賢治のゆかりの場所にはまり、いろんなところに行きました。『銀河鉄道の夜』のモデルになった岩手軽便鉄道の「めがね橋」の下河原に“やまなし”が

落ちていたときには本当に感動しました。また岩手山の溶岩流を見に行ったときには、『気のいい火山弾』に出てくる苔の生えた石が本当にあり感動しました。教材と出会うことで自分自身の人生が本当に豊かになっていると思います。

》教師を目指す人へのメッセージ

日本の未来を創る子どもたちを育てる重要な仕事です。

日々、子どもたちと感動を共有でき、子どもの成長が自己有用感を高めてくれます。与えられたことをきちんとやるだけでなく、創造性も求められます。学生時代に様々な経験をしたり、様々な人と関わったりして、自己を磨いてほしいです。



インタビュー動画

吉牟田 幸子 先生
刈谷市立刈谷南中学校
教職28年目(小学校25年、中学校1年、高校2年)
担当教科：国語

Interview

教職の魅力インタビュー



未来を歩む力を 獲得させていくこと、 それが教師の最大の魅力

野々目 将之 先生

刈谷市立富士松中学校



》先生にとって「教職のやりがい」とは？

子どもたちと「喜び」を共有できたときです。先日、合唱コンクールがあったときのことで、リーダー達が学級をまとめ、より良い合唱を創ることに大変苦労していました。一緒に方法を考え、ときには励まし、実践させていく中で、リーダー達が成長していきました。いつしか私の指示を待つことなく、自分達で練習を考え、実践していくようになりました。残念ながら賞は取れませんでした、素敵な歌声が体育館に響き渡ったとき、生徒達の苦労が思い起こされ、リーダー達の努力が報われたと感じられました。また、歌い終わったあとの満足そうな顔を見ると、なんとも言えない幸福感に包まれました。この瞬間のために教師をやっているのだなと思っています。

》仕事をする上で心掛けていることは？

二つあります。一つ目は、アンテナを高くすることです。例えば、健康観察のときの返事の声の大きさやトーン、休み時間にどこで誰と過ごしているのか、ロッカーの整頓など些細な変化にも気付けるように心掛けています。二つ目は教科指導を充実させることです。私の授業のベースは研究です。毎年、授業研究を積み重ね、研究論文を執筆したり、自主的に勉強会や学会にも参加したりして研鑽を積んできました。優れた実践に多く触れることで、自分自身の力になってきたと考えています。また一昨年まで教職大学院で学んだことも大きな経験となりました。自分で労力や時間をかけて勝ち取ってきたことこそが自分自身の自信となり、生徒達の前に立つことができるのかなと考え、研究は続けていきたいと思っています。

》先生にとって「教師」とはどういう仕事ですか？

生徒に未来を見せてあげられる仕事だと思います。教科の知識や技能にとどまらず、未来を歩む力を獲得させていくことができるのは、教師の最大の魅力だと考えています。こんなに喜怒哀楽のある仕事は他にないのではと思います。ときには生徒の前に立ちはだかり、ときには生徒の後ろで背中を押し、またときには遠くで見守りながら生徒達の人生が輝かしいものになるよう影響を与えられる素晴らしい仕事だと思っています。

》教師を目指す人へのメッセージ

いつの日か、ともに教育を語れる日が来るのを楽しみにしています。



インタビュー動画

野々目 将之 先生
刈谷市立富士松中学校
教職17年目(小学校3年、中学校14年)
担当教科：社会

Interview
教職の魅力インタビュー



教師は毎日の小さな やりがいにあふれた職業

磯貝 咲季 先生

碧南市立棚尾小学校



》》なぜ先生になろうと思いましたか？

今まで出会った先生方が本当に素敵だったので、私もそんな人になりたいと思い、教師を目指しました。勉強のことを褒めてくれた先生、部活動での頑張りを認めてくれた先生。そんな存在になりたいと思い、教師という仕事を選びました。実際になってみると、上手い出来ないこともあります、「教師になって良かったな」と思える瞬間がたくさんあります。

》》どのようなときに仕事のやりがいを感じますか？

毎日のほんの些細なことでやりがいを感じます。例えば、計算検定でなかなか合格できなかった子が合格できたとき、体育で飛び箱の技ができたとき、友達関係で悩んでいた子が「先生、仲良くなった」と言ってくれたときなど、本当に様々な場面で感じています。「毎日の小さなやりがい」がたくさん詰まった職業だと思っています。

》》今後の夢や目標を教えてください

今の目標は、より良い授業ができる教師になることです。自分なりに一生懸命授業の準備をしたり、子どものことを考えて取り組んではいるのですが、まだまだ経験が足りなくて「今日失敗したなあ」という授業がすごくたくさんあります。もっと子どもが楽しいなと思えたり、もっと学びが深まる授業ができるように、日々努力していこうと思っています。

》》先生にとって「教師」とはどのような仕事ですか？

教師は教える仕事ではあるのですが、子どもと一緒に学んでいく仕事だと思っています。教える内容を自分が詳しく知らない面白い授業ができないし、自分が知っていることを全部

子どもに伝えるというのではなく、子どもの気持ちになって一緒に学んでいくことが子どもにとってもプラスになると思っています。

》》教師を目指す人へのメッセージ

私はずっと教師を目指してきて、そして実際になってみて良かったなと思います。正直言うとすごく大変なことももちろんありますが、子どもたちに「ありがとう」と言われたときや成長した瞬間を見たときは「ああ、教師をやっていて良かったな」と思っています。教師を目指している皆さんにも、是非この瞬間を味わってほしいと思います。



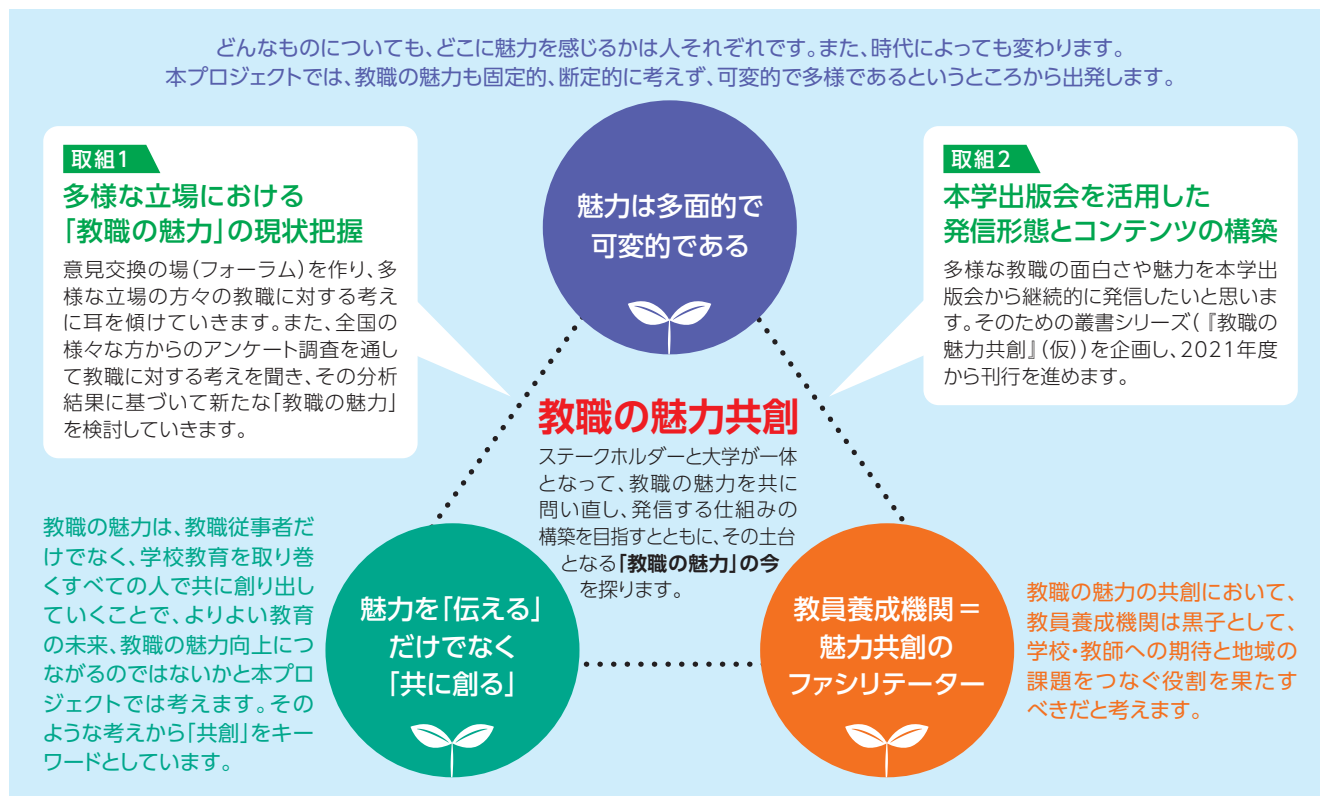
インタビュー動画

磯貝 咲季 先生
碧南市立棚尾小学校
教職4年目(小学校4年)

本事業の目的

本事業は、2020年8月31日に文部科学省から委託された「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の中の「教職の魅力向上に関する取組」の一つとして実施するものです。

❖ 本事業の基本的な考え方



❖ 本事業の成果目標

以上の考え方に立ち、以下の取り組みを行います。

1 多様な立場における「教職の魅力」の現状把握

- 実際に多様な人々に集っていただき、意見交換をする場（フォーラム）を作ります。
- アンケートを実施して、全国の様々な人々から教職に対する考えなどを聞いて、その結果をまとめます。

2 本学出版会を活用した発信形態とコンテンツの構築

- 教職の多様な魅力を本学出版会から継続的に発信したいと思えます。そのための叢書シリーズ（『教職の魅力共創』（仮））を企画し、2021年度から刊行を始めます。
- ウェブサイトやリーフレットでは、以上の事業の進捗状況や成果を発信するとともに、随時、皆さまからご意見をいただき、更なる進展につなげていきたいと思えます。

実施体制

職名・所属部署	氏名	主な担当
学長補佐（大学改革担当）	真島 聖子	企画全体の統括
学長補佐（国際交流担当）	小塚 良孝	企画全体の統括補佐
教授・国語教育講座	丹藤 博文	他大学・附属学校園との連携の推進
教授・生活科教育講座	加納 誠司	教育委員会・公立学校との連携の推進

職名・所属部署	氏名	主な担当
准教授・保健体育講座	鈴木 一成	フォーラム企画・運営
准教授・学校教育講座	竹川 慎哉	HP・リーフレット・叢書の企画・運営
准教授・理科教育講座	宮川 貴彦	アンケート企画・実施

教職の魅力共創 ～多様な経験から「教師の魅力」を考える～



開催にあたって野田学長からは、教員以外の多様な経験のある方と教師の仕事を見つめ直し、社会と一体となって新たにその魅力を創り出し発信していきたいとの熱い想いが語られました。



第1回地域フォーラムの司会を担当した鈴木一成准教授

本プロジェクトのキックオフとなる「第1回地域フォーラム」が9月26日(土)、本学の次世代教育イノベーション棟にて開催されました。

今回は、多様なご経歴をもつ方々に教職のイメージを大いに語っていただく中で、様々な観点から教職を見つめ直すことを趣旨にしました。ゲストとしてお招きしたのは、7名の方々。別の仕事をされた後に教員になった方、教員をしていたが今は別の仕事をされている方など、多様な経歴のみなさんでした。

そうした方々から語られる教師の仕事や魅力は、ときに冷静に教師や学校のありようを見つめるものであり、しかし同時に学校の教師に願う暖かいまなざしでもありました。こうした様々な「語り」から教師の魅力を問い直し、新たに創り出していく必要性を改めて感じた会となりました。

今回は、オンラインシステムを使い、遠方ゲストにご参加いただきました。世代や仕事、性別、空間も超えて、今後も対話を重ねていきたいと思えます。

当日は、刈谷市の地域ケーブルテレビ局「KATCH」や中日新聞の取材がありました。



今後の予定・ご案内

2020年

9月

- 事業開始
- 第1回地域フォーラム(「教職に対するイメージと現状」)の開催

10月

- 「教職の魅力向上」に関する出前授業の実施

11月

- 「教職の魅力向上」に関する第1回Webアンケート公開
- 教職の魅力共創プロジェクト専用ウェブサイト公開

12月

- 第2回地域フォーラム(「教職の魅力、その向上への課題」)の開催

2021年

1月

- リーフレットVol.1発行
- 第1回Webアンケートの結果と分析の公表
- 叢書シリーズ(『教職の魅力共創』(仮))第1回配本用企画募集開始

2月

- 「教職の魅力向上」に関する第2回アンケートの実施
- 「教職の魅力共創」公開シンポジウムの開催

3月

- リーフレットVol.2発行
- 調査結果のまとめ・報告書の作成

▶ウェブサイト開設

本プロジェクトのウェブサイトを開設しました。教職の魅力を伝える動画や取り組みの報告などを発信しています(<https://www.aue-cocreate.jp/>)。

随時、情報発信手段として充実させていきますので、ぜひご覧ください。



▶シンポジウムの開催

2021年2月27日(土)に様々な立場の登壇者をパネリストにお招きして、教職の魅力を考えるシンポジウムを開催致します。詳細はウェブサイトにてお知らせ致します。



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／
愛知教育大学「大学出版会を活用した地域参画型の
『教職の魅力』発信プラットフォームの構築」
教職の魅力共創プロジェクト